

2024 年 07 月 18 日

「アマチュア無線の魅力向上アイディア」提案書

1. 提案者
 - ・氏名（グループの場合は代表者）：永野 雅之
 - ・年齢：
 - ・コールサイン（局免許保有者の場合）：JF6VCH
 - ・連絡先 住 所：
 - メール：
 - ・（グループの場合）代表者以外の構成員の氏名・年齢：
2. 提案カテゴリー（AまたはBを選択）
 - B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイディア
3. アイディア名：2 匹目のドジョウ作戦
4. アイディアの概要（200 字以内）：

かつて四級アマチュア無線技士の免許を取る人間が急激に増加し、コールサインの発給がものすごい勢いで進んでいた時代がありました。その時のブームの火付け役は一見アマチュア無線とは関係のない、バブル絶頂期のアーバンでお洒落なスキー映画でした。それをもう一度再現できたら若者に注目されることは間違いありません。
5. 詳細説明（図表を含めて 4 頁以内）：

私は 80 年代前半の中学生の頃に電話級（当時）の免許を取ってハムライフをスタートしましたが、80 年代後半の大学生の時にハム人口が急激に増える出来事がありました。ホイチョイ・プロダクションの「私をスキーに連れてって」の公開と大ヒットです。劇中で使用されたアマチュア無線は、ゲレンデでのコミュニケーションツールとして非常に魅力的に描かれており、当時私の周辺でもスキーブームと共に四アマの資格を取得することが流行りました。

さて、題目は「アマチュア無線を知らない若者に・・・」と言う事ですが、まずはアマチュア無線を知って貰わなければいけません。2024 年現在、我々が周囲を見渡して、若者にアマチュア無線の存在を知らせるような何かが在るのでしょうか？30 年前でしたら庭にタワーがある家やアンテナを付けた自家用車などありましたが、最近はめっきり減ってしまいました。若者が日常生活でアマチュア無線と遭遇する機会がないのですから、こちらから作らなければなりません。その効果的な方法として、前述の「私をスキーに連れてって」の例が非常に参考になると思います。

時代背景に合致した若者向けの映画、又は地上波 TV の連続ドラマ、その劇中でさりげなく脇役ながらも魅力的で格好良いアマチュア無線の運用。これこそがアマチ

ュア無線を若者に知ってもらう一番良い方法だと考えます。物語において無線が主役である必要はありません。運用方法もマイクに向かって喋る以外にも色々あります。

例えばF P Vドローン。物語としては、大学に入学した主人公が何らかの切っ掛けでドローンサークルに入り、そこで大学対抗のF P Vドローンレースに出場して色々青春する...といった内容であれば、日本ではF P Vドローンを操縦するために、娯楽であれば四アマガ、賞金など金銭が絡むのであれば三陸特が必要なため、主役はF P Vドローン操縦の練習風景やレースの場面でありながら無線の試験の話になったり、サークル内の連絡用にハンディ機が登場したり、実はこのサークルは昔はアマチュア無線のサークルだったんだよとか裏話の会話が出てきたりしてアマチュア無線の露出が増えるでしょう。

それをどう魅力的に描くかは脚本家の腕に掛かっています。

「私をスキーに・・・」はバブル上昇期にホイチョイ・プロダクションが手がけた作品ですが現在であればどなたへ依頼するのが良いでしょうか？

三谷幸喜氏、あるいは宮藤官九郎氏など素晴らしい脚本を書かれる方がいらっしやいます。

あるいは秋元康氏に監督をお願いしてAKB48グループや坂道シリーズのメンバーを学生役として出演させていただき、秋葉原女学院と乃木坂女子高校のドローン部の対抗戦といった形の青春群像劇も面白いかと思います。その際の主題歌はAKB48の「365日の紙飛行機」でしょうか。秋元康先生でしたら新曲を作られるかもしれません。

F P Vドローンを飛ばすには無線の免許が必要ですよという啓蒙にもなります。

是非、JARL や JARD（劇中では四アマ養成課程講習会やF P Vドローンの保証認定で登場予定）にも協賛して頂きまして臨場感溢れる作品を造ってもらえたらと思います。

終わり